

京都工芸繊維大学（KIT）で英語を学ぶにあたって（3年次編入生用）

1. 「KIT 英語鍛え上げプログラム」の概要

国際的に活躍する高度で専門的な科学技術者を養成する KIT では、その基盤となる高い英語力を1・2回生のうちに培うために、「英語鍛え上げプログラム」という集中的な学習プログラムを実施しています。先端分野を担う科学技術者には、「世界共通語」とも言われる英語をマスターすることが必須で、日常会話はもちろん、専門領域の情報を自在にやりとりできる高度な英語運用能力が求められます。上回生になれば、あるいは、大学院に進めば、英語文献の読解、英語による論文執筆、国際学会での口頭発表、諸外国からの研究者や留学生との交流などのタスクをこなさなければなりません。そこで KIT では、通常の英語授業を通して、皆さんの英語学習への意欲を高め、読む・書く・聞く・話すの英語の4技能をトータルに伸ばしながら外部試験などにも対応できる安定した力がつくように全力でサポートしていきます。

2. KIT の英語教育科目

KIT では、(i) TOEIC 等の外部試験受験に向けた準備科目として Career English Basic, (ii)英語で行われる授業の受講に向けた準備科目として Academic English, さらに、(iii)専門科目を学び、研究を進める上で必要となる、英語による論文読解・執筆・プレゼンテーション・ディスカッション等に関する基礎的な力を養うための科目として Interactive English と English for Sciences and Humanities を開講しています。詳細は次の表を参照してください。

<u>Interactive English</u> A/B	<ul style="list-style-type: none">・ Aは1年次前期配当、Bは1年次後期配当で、いずれも必修科目・ 口頭のインタラクションに重点を置き、多様な場面に自信を持って対応できるコミュニケーション能力を養うとともに、海外情勢や異文化についての理解を深める。・ 追加課題として <u>extensive reading</u>（多読プログラム）が課される。・ *A/Bとも、指定クラス制（各学生が指定されたクラスで受講する制度）。・ *TOEICスコア800点以上またはそれと同等のレベルの学生を対象とした高レベルクラス（ah）の受講希望者は授業日にクラスに行くこと。
<u>Career English Basic</u>	<ul style="list-style-type: none">・ 1年次前期配当の必修科目・ 将来の就職活動や大学院進学などを見すえ、TOEIC など社会的に認知された評価基準に耐えうる柔軟な英語運用能力を身につける。<ul style="list-style-type: none">※院試や就職に向けて高得点を目指す学生には、さらに1年次後期配当実践教養科目の「TOEIC 対策講座 I」（選択科目）や、3回生以上が受講可能な当高年次配当科目の「TOEIC 対策講座 II」（選択科目）を履修することを勧める。・ TOEIC の受験が義務付けられ、スコアが成績に加味される。<ul style="list-style-type: none">※TOEIC730 レベル以上のスコアを取得した場合、申請すれば実践教養科目の「TOEIC 対策講座 I」（選択科目・2単位）が受講登録の有無にかかわらず「S」評価で認定される。また、860 レベル以上のスコアを取得した場合、申請すれば卒業認定に必要な全学共通科目のうちの2単位として「認定」される。・ 追加課題として <u>e-learning</u> が課される。
<u>Academic English</u>	<ul style="list-style-type: none">・ 1年次後期配当の必修科目・ 学術的な場面で英語を使うための基礎を固める。・ 追加課題として <u>e-learning</u> が課される。
<u>English for Sciences and Humanities</u>	<ul style="list-style-type: none">・ 2年次以上配当の必修科目・ 学生がそれぞれの専門課程の科目を学び、研究を進める上で必要となる、英語による論文

A/B	読解・執筆・プレゼンテーション・ディスカッション等に関する基礎的な力を養うことを目標とする。 ・追加課題として e-learning が課される。
-----	--

※3 年次編入生は、入学時に、英語の必修科目 (Career English Basic, Academic English, Interactive English A/B, English for Sciences and Humanities A/B) は単位認定されていますので、改めて受講することはできません。

1 年次以上向けの選択科目である「ビジネス英語」や「TOEIC 対策講座 I」については履修可能です。また、3 年次以上向けの選択必修科目として高年次科目があり、英語科目としては「TOEIC 対策講座 II」と「セミナープロジェクト」があります。これらを受講することもできますので、それぞれの英語学習のプランに応じて履修をしてください。

●授業への出席について



KIT では、英語教育科目の取り決めとして、やむをえない事情がない限り、**4 回以上欠席すると成績評価の対象にならない (受講資格を失う)** ことになっています。また「語学」という科目の性質上、受け身にならず積極的に学習活動に参加することがすべての受講生に求められます。積極的に授業に取り組んでいない場合や授業を妨げる行為があった場合には、欠席とみなされることがあります。

3. 到達目標の目安

KIT の学生は、卒業までに、英語の必修科目 (Career English Basic (1 単位), Academic English (1 単位), Interactive English A/B (各 1 単位), English for Sciences and Humanities A/B (各 2 単位)) の 8 単位を取得する必要があります。また、卒業研究に着手できるかが判定される 3 年次終了時点で、必修科目の取得が義務付けられている課程もあります。TOEIC (あるいは TOEFL, IELTS) 等の外部テストを通して自分の英語力が海外や実社会の基準に照らしてどの程度なのかを確認しながら、実力や興味・関心等に沿って、必要とされる英語の授業を受講し、単位を取得していきましょう。専門領域の知識やスキルの獲得に加えて英語力の向上を目指すのは至難の業です。自学自習も意欲的・計画的に進めていってください。下に TOEIC のスコアを基準とした目標設定の目安を示します。TOEFL, IELTS など他のテストについても同じことが言えますので、高い目標を設定して着実に学習を進めましょう!

※3 年次編入生は、入学時に、英語の必修科目 (Career English Basic, Academic English, Interactive English A/B, English for Sciences and Humanities A/B) 8 単位が単位認定されていますので、英語科目を追加で履修する必要はありません。必須ではありませんが、「ビジネス英語」、「TOEIC 対策講座 I」、「TOEIC 対策講座 II」、「セミナープロジェクト」は受講可能です。これらの科目をうまく活用して、TOEIC 等の外部テストへの挑戦を検討してみましょう!

↓	学んだ知識を実際のコミュニケーションで使えるレベルには達していない。TOEIC に特化した勉強をする前に、 文法・語彙などの基礎固め をしよう。「意味」を意識しながら、 リスニングや音読を繰り返す ことにより、訳し上げずに (そのままの語順で) 内容を理解できるようになることが重要!
450 ↓	実生活で最低限のコミュニケーションができる (簡単な単語でゆっくり話してもらえれば、相手の言っていることが分かり、身近な話題であれば応答も可能な) レベル。 基礎力はあるはずなので、あとは勉強あるのみ! 語彙力アップと文法知識のブラッシュ・アップを図りながら、リスニング・リーディングの訓練を積もう。 1 年次前期の Career English Basic 受講終了までに、630 レベルを突破することが理想。
630 ↓	日常会話の自然なスピードに対応できるレベル。このレベルに到達すれば、文法・語彙などを含むすべての領域でまずまずの実力はあるはず。 実践的な問題集などを用いて、さらなるトレーニングを積もう! ポイントは、単に問題を解くだけでなく、リスニング・リーディングとも問題文や選択肢の 細かいところまで十分に理解し、覚えるべき事項を確実に覚える こと。 1・2 年次後期配当の実践教養科目「TOEIC 対策講座 I」(選択科目)、3 年次以上配当の「TOEIC 対策講座 II」(選択科目)を活用して学部卒業までに 730 レベルを目指しましょう。

730 	<p>日常会話を越え、ニュースなどの英語にもなんとか対応できるレベル。スコアが 730 を超えると、仕事上でも最低限のコミュニケーションができるようになるので、多くの企業が新卒者にこのレベルの英語力を求めるようになってきている（「TOEIC 730」は企業の人事担当者から見た選考分岐点の一つと言われる）。このレベルまでくると、スコア・アップは容易ではないが、TOEIC に特化した勉強に加え、新聞・テレビ・インターネットなどを利用して日常的に英語を使うようにすれば、実力は確実に伸びる。</p> <p>730 に到達後、半年から 1 年を目途に次のゴール（800）を目指そう！</p>
800 	<p>多様な場面で適切なコミュニケーションができるレベル。理工系の学部生としては優秀なレベルだが、国際社会で自在に仕事や研究をするには不十分。多様なメディアを介して大量のインプットを受け取るとともに、アウトプットの機会をできる限り増やそう！ポイントは、英語との接触を日常化すること。</p> <p>レベルが高くなるほど得点アップは難しく、学習を継続する力が試される。 860 点以上を取ると、申請すれば全学共通科目合計 2 単位が追加認定される。</p>
860	<p>語彙・文法を駆使して、円滑なコミュニケーションができるレベル。このレベルに達すると、学習の成果を目に見える形で測定することは難しい。英語を実際に使うことと学習の積み重ねで、地道にブラッシュ・アップを図るしかない。</p> <p>大学時代にどこまでいけるか？ ここから先は自分への挑戦！</p>

4. 学習の進め方

外国語習得を促す主要因は、インプット（読んで、聴いて、内容を理解すること）です。それも大量のインプットを浴びなければ、外国語を使いこなせるようにはなりません。「英語鍛え上げプログラム」に積極的に取り組めば、短期間で集中的に大量のインプットを浴びることができます。いっぱい読んでいっぱい聴いてしっかり理解するという単純なプロセスですが、その効果を左右するのは学習に投じる時間と集中力です。TOEIC や TOEFL 受験のための勉強も英語習得に有効ですし、大学院入試や就職にも役立ちます。常に「使う」ことを意識して継続的に英語学習を進めてください。

5. 「KIT 英語学習サポートシステム」について

学生の自学自習を支援し、英語力向上を図るために、以下のような制度を設けています。積極的に利用して、学習効果を高めましょう！

(1) KIT 短期海外英語研修

本学ではこれまで、学生の英語力向上を目的とした短期海外英語研修プログラムを実施してきました。夏季休暇を利用したイギリスでの 5 週間にわたるプログラムと春期休暇を利用したオーストラリアでの 5 週間にわたるプログラムで、いずれのプログラムに関しても大学からの学資支援があります。これらの研修に参加して一定の成績を収めた学生には、本学の言語教育科目 2 単位が認定されます。

※なお、研修先は年度によって変更する場合があります。

(2) e-learning を用いた学習支援

コンピュータがあれば、どこでもオンラインで英語学習ができる Academic Express 3 を導入しています。1 年次の配当科目 Career English Basic と Academic English では、このシステムを利用して毎週課題が出されます。Academic Express 3 には、この課題として出される教材以外にも「週刊！英語ドリル」や「TOEIC mini」などをはじめ、多様な教材が揃っています。これらもうまく利用して継続的・自主的に英語学習を進めましょう。

※ Academic Express 3 には、情報基盤センターの ID と Password を用いて学内外からアクセス可能です。（URL：<https://supereigo.campus.kit.ac.jp/student/main/login>）

(3)英語教員のオフィスアワー

英語教育を担当する各教員がオフィスアワーを設け、学生からの質問や相談に応じています。受講科目の選択や授業の内容についてはもちろん、TOEIC・TOEFL・IELTSなどの試験対策、短期・長期の留学など、英語学習に関する質問・相談を受け付けます。

〈3年次編入生の皆さんへ〉

本学では、将来国際的に活躍するために必要な高い英語運用能力を養うために、英語の単位を一括認定された3年次編入生の皆さんに対しても英語学習のサポートをしています。

1. E-learning を用いた自主学習

5-(2)に示した E-learning システム (Academic Express 3) は3年次編入生も利用可能です。利用希望者は、英語専任教員に連絡をしてください。

2. 選択科目と高年次配当科目の受講が可能

1年次以上向けの選択科目である「ビジネス英語」や「TOEIC 対策講座 I」については履修可能です。また、3年次以上向けの選択必修科目として高年次科目があり、英語科目としては「TOEIC 対策講座 II」と「セミナープロジェクト」があります。それぞれの英語学習の計画に応じて履修をしてください。

3. オフィスアワー

その他、1や2以外であっても英語学習に関する質問や相談がある場合には、是非オフィスアワーを利用してください。